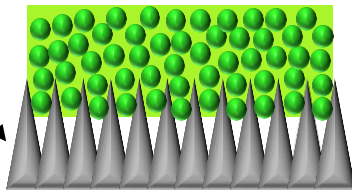


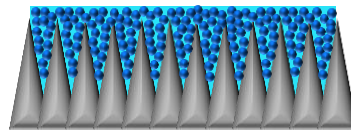
コート層の形成イメージ

コーティング施工素材ガラス・鏡・樹脂・プラスチックなど

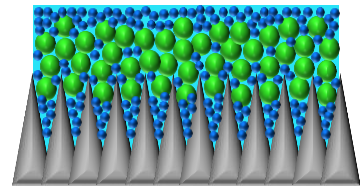


被膜型コート層形成イメージ

GCはナノ粒子が浸透し
硬化後はアンカー効果で定

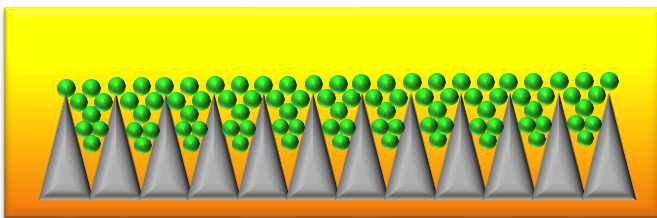


浸透型コート層の形成イメージ

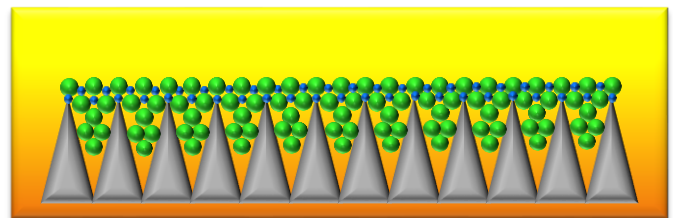


複合型コート層の形成イメージ

グラスコーティングPRO
フォーミュラGCタイプ



被膜型コート層形成イメージ



複合型コート層の形成イメージ

上の左図被膜コート型及び右図の複合型は、膜厚を得るために粒子の大きな物を使用します、そのため、硬化後は微細な隙間が生まれ、この隙間に、ケイ素系の汚れが入り込みウォータースポットを形成します。

ケイ素は硬化(固まる)する際に膨張する性質を持つため、隙間が大きいと入り込むケイ素の量が多くなり、被膜を破断します。※体に合わない小さな服を着ているのと同じ状況になる

海水=塩水によるウォータースポットが取れにくいのも同様の原理で、塩は水に溶けている状態ではNaとClに電離分解しています。つまり、元素状態で存在しているため、非常に小さく、塗装面や、コート層表面の小さな隙間に入り込みます。

そして、水分がなくなると、イオン結合して、NaClとなり、体積が増加し塗装面やコート層表面を破断させるため、重篤なウォータースポットを発生します。

このような、ケイ素による破断を防ぐためには「汚れ」としてのケイ素が入り込む隙間を埋める必要があります。

そこで、美しい(コーティングとしても使える)ケイ素で隙間を埋める作業が2層目のコーティングとなります。ナノレベルのケイ素は、撥水、親水両方のコーティング被膜に施工可能です。ただし、撥水被膜に何度も施工すると、親水被膜になります。